

デング熱って？

8月下旬より、デング熱が流行しています。9/19現在、日本国内で141名の患者が報告されています。埼玉県でも8月下旬以降、12名のデング熱患者が報告されています。患者の多く(132名;93.6%)は、代々木公園やその周辺で蚊に刺された後に発症しており、今のところ埼玉県内で蚊に刺されてデング熱を発症した患者の報告はありません。

デング熱は、デングウイルスの感染により発症する感染症です。デングウイルスに感染した人を蚊が吸血すると蚊の体内でウイルスが増殖し、その蚊が他の人を吸血することで感染します(蚊媒介性)。ヒトからヒトへ直接感染することはありません。世界的には、熱帯・亜熱帯の地域に流行する感染症で、特にアジア、南アジア、中南米で流行しており、世界では年間1億人以上が罹患している感染症です。

日本でも海外の流行地で蚊に刺され感染し帰国した症例が毎年200人前後報告されています。日本国内で蚊に刺され感染した症例は、60年以上報告されていませんでしたが、2013年夏、日本に来たドイツ人渡航者が帰国後デング熱を発症したと報告されていました。

デング熱を媒介する蚊は、主にネッタイシマカです。ネッタイシマカは日本には常在していませんが、秋田県や岩手県以南に生息するヒトスジシマカも媒介することがあります。つまり、北海道や青森県で蚊に刺されてもデング熱は感染しません。

デング熱は、蚊に刺された後、2～15日(多くは3～7日)で発症します。突然の発熱、頭痛、眼痛、顔面紅潮、結膜の充血で発症し、発熱は2～7日続きます。発熱は一旦解熱しても再度発熱することがあります。発熱等に続き、全身の筋肉痛、骨関節痛、全身倦怠感がみられます。発熱から3～4日後、発疹が出現します。症状は7日前後で回復します。発疹以外の症状は、冬場のインフルエンザに似ており、夏場のインフルエンザという異名もあります。多くは、軽症で済みますが、まれに出血症状(鼻血や紫斑等)を伴い、重症化することがあります。これを「デング出血熱」と呼びます。ヒトからヒトへ感染することはありませんが、感染した患者が蚊に刺された場合は(潜伏期間でも)、その蚊を介してデング熱がヒトへ伝播する可能性はあるため、感染患者は、蚊に刺されないように蚊から隔離する必要があります。

デングウイルスに対する特異的な薬はなく、デング熱に対する治療は対症療法のみです。デングウイルスに対するワクチンもないため、デング熱の予防は、蚊に刺されないようにするのみです。長袖・長ズボンを着用し、虫よけスプレーなどの使用が推奨されます。

日本に生息しているヒトスジシマカの活動時期は、5月中旬～10月中旬で、主に日中に活動します。人がよく刺されるのは、藪、竹林の周辺、墓地、公園の木陰などが多いようです。一匹のヒトスジシマカの活動範囲は50～100mぐらいです。ヒトスジ

シマカは日本では成虫まま冬は越せず、卵で越冬します。卵を通じて次世代の蚊にデングウイルスが伝播したという報告は国内外でされていないため、限定された場所の一過性の感染と考えられています。このため、今年デング熱の感染が発生した場所が翌年も危険とは限りません。来夏は、別の場所でデング熱が発生する可能性があります。今年はもちろん、来年も蚊に刺されないように注意する必要があります。夏場に蚊に刺された後、発熱、関節痛等の症状が出たときは、念のため医療機関への受診をお勧めします。

2014年9月 ハロークリニック 新井 克己